

# Yamakado News Letter



## 8月後半から9月前半にかけての活動

来月10月は1ヶ月間、琵琶湖博物館内の展示施設「新空間」にて「山門水源の森の自然と保全」をテーマにポスター展示を開催します。それに併せて10月8日には琵琶湖博物館ホールにてシンポジウムも開催します。

今年「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」が発足して15年目です。その節目にあたり何か記念になる事業をと、理事会では昨年末から会議を重ねてきました。それは同時に2014年末から議論を続けている「山門水源の森2050」にも関わる内容になります。少し遠い将来の2050年、この森が生物多様性に富む森に再生している姿をイメージし、そこに到達するためには何をしていくべきなのか。このことを議論しながらビジョンをまとめる作業が「山門水源の森2050」です。琵琶湖博物館での展示は、会員のみならずより多くの人々にビジョンを共有してもらい、この森への関心を深めてもらう目的で開催します。只今、作業進行中です。特に担当の伊藤博さんと西川勇さんにはポスター編集や現場設営企画で膨大な量の作業をこなして頂いています。是非10月には琵琶湖博物館にお立ち寄りいただければと思います。



9月3日 琵琶湖博物館展示検討会の様子。この日は9時から16時まで研修室に籠りきり。

下記画像は展示される約40枚の一例です。所狭しと内容の濃いポスターが並び予定です。

### 山門水源の森の自然と保全

### シカ食害の取り組み

### 山門水源の森 2050



#### その他にも進行している食害



#### 生物多様性と水源涵養、そして防災

急激な食害は単に木が枯れたり、咲く花が減るという問題にとどまりません。

昆虫の中には特定の植物（食草という）しか食べないものがあります。もし食害が食草などで弱ってしまったらどうでしょう。その植物しか食べない昆虫も食べ物がなくなって姿を消してゆきます。また、その昆虫に受粉を助けてもらっていた植物が種を作りにくくなったり、その昆虫を食べていた鳥も餌が減ってしまうこととなります。

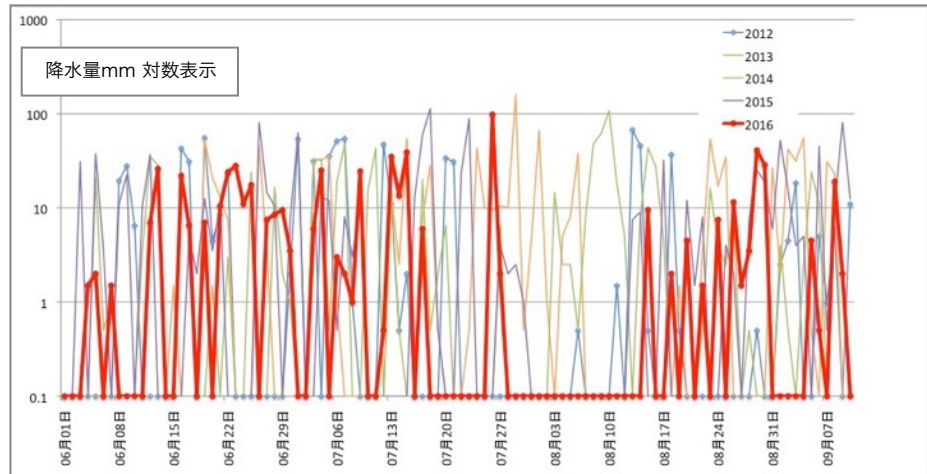
生物の多様性が保たれている時は何とか安定していた自然界のバランスも、多様性が損なわれてゆくと安定するのが難しくなります。

落ち葉が詰まった山の土は水を溜める力があります。ところが下草（下層植物）が無くなると、雨で山の土は流されやすくなり、土が流されると保水力が弱まります。保水力が弱まると下流の住宅地に土砂災害を及ぼす原因になったりします。



## 最近の森の様子

この夏は例年になくキノコの発生が少ない夏でした。しかし台風13号が日本列島を通過した後に気候が変わったようで、9月9日辺りから色々キノコが観察できるようになりました。



柳ヶ瀬の6月1日から9月10日までの降水量の日合計 5年間の比較

なぜ、この夏はキノコの発生が少なかったのか。柳ヶ瀬の降水量と今津の1日の平均気温のデータを使って、2012年から5

年間で6月1日から9月10日までの比較をしてみました。平均気温では特に年別に大きな差は見られませんでした。降水量では今年だけ7月後半から8月前半にかけて極端に少ない特徴が見られました。これがキノコに何らかの影響を及ぼしたように思いますが、いかがでしょうか。さて、このように例年に比べ夏場の菌類の活動が抑制されたように思える状況の後には、連鎖的に何か例年とは違うことが起こるのでしょうか。例えば分解者の活動が少ないので養分が減り、植物の生育に影響が出るなどと想像しますがどうでしょう。それとも地中にはいつもと変わらない菌類の活動があって、森の全体としてはバランスが保たれているのでしょうか。そんな視点でこれからの秋の森を観察していくのも面白いと思います。



ペアのベニイグチ 9/10



ペアのアカイボカサタケ 9/10



ハナガサイグチ 9/10



セイタカイグチ 9/10



ハナホウキタケ 9/11



シロオニタケモドキ 9/10